

スワルスキーの露地ナス登録取得と今後の展望

○里見 純・山中 聰 (アリストライフサイエンス㈱)

スワルスキー® (スワルスキーカブリダニ剤) は、農薬登録取得後、順調な出荷量の伸びを示し国内で 2014 年度の 1 年間に 1,500ha 以上の使用実績となっている。

スワルスキー®の農業現場への投入は抵抗性害虫への防除効果だけでなく、害虫を持続的に抑えることで薬剤散布回数の削減、省力化、軽労化をもたらし、IPM 防除技術に革命をもたらしたといえる。さらに、剤型もボトル製剤だけでなく吊り下げ型パック製剤 (スワルスキー® プラス) も開発され、より多くの作物分野 (果樹) に IPM の技術と概念を広める推進力となっている。我々は、さらに IPM 技術分野を露地作物へ広げるべく本年 5 月に本種の露地ナスの適用拡大登録を取得した。

現在、各地で実証圃試験を実施中であるが、本発表では外来種であるスワルスキーカブリダニが露地での登録を取得した経緯および我々が考案した露地ナスでのインセクタリープラントとスワルスキー®を併用した IPM 防除プログラムを紹介する。また、実際に使用して新たに着目された注意点を示しながら、今後の展望について報告する。



写真 1. インセクタリープラントを利用した露地ナスの栽培状況